

令和4年度 第3回磐田市廃棄物減量化等推進審議会 会議録

【日 時】 令和5年3月16日（木）午後1時30分～

【会 場】 磐田市クリーンセンター 2階研修室

【出席者】 会 長 藤田 允
副会長 安間 美恵子
委 員 白川 早苗 永井 さえ子
今泉 佳代 宮地 浩
足立 良太 伊藤 慎弥
渡邊 カルロス 根津 康広
鎌田 俊己 相羽 久美
宮田 伸生 玉木 良汰
順不同（14名出席）

【事務局】 環境水道部長、ごみ対策課長、ごみ対策課長補佐、
審議会担当職員1名

【会議概要】

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
4. 閉会

【意見・質疑の主な内容】

1. 開会

事務局 皆様、こんにちは。本日は、お忙しいなか、お集まりいただき誠にありがとうございます。日ごろは当市のごみ減量施策の推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

それでは、ただいまより、令和4年度 第3回 磐田市廃棄物減量化等推進審議会を開催させていただきます。

2. 環境水道部長挨拶

環境水道部長 改めましてこんにちは。年度末のお忙しい時期にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

早いもので、委員の皆様をお願いしております任期2年のうち、1年が経とうとしています。今回が今年度最後の審議会ということになります。

今年度を振り返りますと、昨年9月に発生しました台風15号では、本市におきましても甚大な被害がありました。被害にあわれた方々にお見舞いを申し上げます。市としましても、災害対応と被災者の生活支援に全力で取り組み、災害ごみの処理につきましては、仮置場の設置やごみ収集業者との災害協定により、おおむね円滑に行うことができたものと考えています。

本日も皆様から多くのご意見をいただきたいと思います。
よろしく願いいたします。

事務局 本日、委員の過半数が出席しておりますので、磐田市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第25条第2項により、本会議が有効に成立していることをご報告申し上げます。審議会の進行については、条例施行規則第25条第1項により、会長が議長となりますので、以後の議事進行につきましては、藤田会長よりお願いいたします。

会長 ただいまから私が議事進行を務めさせていただきます。その前に、わたくしも6年間この審議会を続けさせていただいていたのですが今期を最後に退任することになりました。今までご協力を頂きましてありがとうございます。この会が最後になると思われまので最後までご協力お願いいたします。それでは次第に移らせていただきます。議事(1)(2)(3)について、事務局から一括して説明していただきたいと思ひます。

3. 議事

《（１）～（３）を事務局より一括して説明》

会長 ありがとうございます。それでは（１）から（３）を通してのご意見ご質問をお願いします。

委員 この計画や審議会の活動を知っている人は市内にどれくらいいるのかという事が気になりました。きっかけとして、私の友人や会社の人と話した時に審議会の存在を知っている人がおらず、計画を知らない人が多かったので、活動を知っている人はどれくらいいるのかという質問です。

次に、私の思いなのですが、もっと廃棄物の処理や減量を自分事として色々な人に感じてもらいたい。色々な人と話をした時に、ごみを正しく捨てたり減らしたりという思いを持っている人もいれば、全然持っていない人もいます。持っている人には物凄く強い思いを持っている人もいる事もあったので、私もそう思いました。

次に、雑草等のリサイクルですが、メリットの部分で金額や数字で表現出来る事はあるのか。作業時間の削減や、交通費とか経費削減出来るのでしょうか。

最後に提案です。ごみ問題に意識のある人もない人ももっと自分事として考えられるような仕組みを私自身作りたいと思っているのですが、市内のイベントやららぼーとなど人の集まる場で啓発を行うというのはどうでしょうか。実際に体験も出来ると身近に感じられて人の意識も向けやすくなるかなと思います。

事務局 まず、計画や審議会の存在を知っている人が市内にどれくらいいるのかという質問ですが、この計画や審議会の議事録については磐田市のホームページで公開しておりますが、存在を知っている方は残念ながらそれほど多くないと思われます。ただ、市としては審議会での意見を施策に反映することや、値引きシールキャンペーンなどの分かりやすい内容でごみ減量のPRをしていきたいと考えています。次に、ごみのイベントですが、コロナ禍になる前はイベントのPRブースでも展示を実施していましたので、今後はそのような場所で開催出来るように考えていきたいと思っております。

次に、雑草等のリサイクルのメリットを数字や金額で表現する事は可能なのかという事ですが、雑草等のリサイクルのメリットは、CO2の削減や地球温暖化防止などになりますが、数値としては再生事業者からの報告を前年の同時期と比較して、再生量がこのチラシを出すことによって増えてくるはずですので、そういった情報や数値を今後は注視していきたいと考えています。

委員

一年間で特に印象的だったのは、前回の視察に行きまして、空き瓶が草の生えない再生砂になるというのを目の前で見させていただいたのが非常に印象的で、非常に感謝しております。これだけの施策をやっている中で磐田市は評価されるべきだと思うのですが、特別な評価はされているのかどうかという事が一つと、市民の方々に周知するという行為はおそらく非常に難しいと思うのですが、数字ばかり出てくると印象を持たれる方も多いと思うのですが、何か違う方法でPRしていく方法があれば良いなと思っています。最初にいただいたクリアファイル。私は毎日仕事でクリアファイルを使っているのですが、これはいったいどういった入手方法で紙のファイルが買えるのでしょうか。プラスチック製品を紙に代行していけるツールを教えていただければと思います。

事務局

ありがとうございます。まず、最後の紙ファイルですが、これは啓発用に市で作っていますので販売はしていませんが、一般の事務用品のホームページなどで「紙製ファイル」と検索すればプラスチックファイルと比べると割高ですが市販はしております。1点目と2点目のご意見ですが、特にこの値引きシールキャンペーンをやり始めて、応募用紙にコメントを書く欄があり、それに我々も目を通してはいるのですが、応募していただいた皆さんが非常に好意的なご意見を書いていただいています。「今まで値引きシールの商品を買うのは恥ずかしかったけれど、これを買うことで食品ロス削減に協力出来た」というコメントが非常に多くありました。この取り組みというのは県内で初めてです。

また、「頑張ろう。オール磐田でゴミ減量」というチラシで磐田市が市民の皆さんのおかげで県内、全国でも一人一日当たり排出するゴミが少ないということを掲載してお配りしたら「知らなかった。

磐田市民も頑張っているな」というお声もいただいておりますので、こういった声も参考に引き続き取り組んでいきたいと思っております。

委員 現在、磐田市の LINE 公式アカウントで登録されている市民の方が何人いてのごみ出しカレンダーの登録者 4,080 人なののでしょうか。これを活用してごみ自体の削減につなげていくことが良いと思えます。ホームページや広報いわたは見てくださいと言わないと皆さん見ないと思えます。

事務局 LINE の関係ですが、こちらにも非常に良い反応をいただいております。コロナワクチンの関係があり、市全体では約 9 万人の登録があります。これだけの数の利用者の方を対象に新たにごみ分別アプリが使えるようになりました。今までの何十倍もアクセスが来ているという報告がありますので、そういったことで使える機能を研究してさらに拡大していきたいと思っております。

委員 大規模災害への対応で、災害ごみを処分しましたという報告がされているのですが、その約 750 t の内訳。それを大体で構わないので教えてください。

事務局 大体、このクリーンセンターに入った可燃ごみが 500 t 弱、中遠広域粗大ごみ処理施設に入った不燃ごみが 120 t くらいです。残りの多くが民間業者において資源化したものになります。

委員 民間の再生業者を使って処理をする中で、例えば水没した可燃物ですけれど、今回のごみ処理では検討はされなかったのですか。

事務局 検討しまして、例えば畳など仮置場に搬入された物は資源化業者にお問い合わせしましたし、木くずも全部ではありませんが資源化業者に頼んだ実績があります。

委員 分かりました。私もぜひそうすべきだと思っていたので、そういった形でやって頂けて良かったです。

委員

令和5年度の主な取り組み案について質問をします。ごみ袋の記号化の実施ですが、色々な気遣いをしてご説明をされていると思うのですが、自治会などの皆さんへ説明された中での反応に関してお聞きしたいです。それと、記号の割り当ては、他の市でも実施しているのですか。

それからもう1点です。災害廃棄物仮置場の資材拡充の関係について、仮置場の件ですが、どの程度設置を考えているのか。ある程度スペースがなければ足りないものですから、その辺の説明をしていただきたい。

最後に、ごみの処分にかかる経費の推移の事で、今後、経費が膨らむ可能性があると思います。令和4年度の決算はまだ出ておりませんが、その辺についてお伺いしたいと思います。

事務局

まず1点目の記号の関係ですが、問い合わせは、それほど多くない状況です。自治会連合会に説明をさせていただいた中で自治会の関係者の皆様がおっしゃっていたのは、記名が基本で、磐田市が何十年も前からずっと続けていて、磐田市民の皆様浸透しているという事でぜひ大切にしてもらいたいという思いをいただいたところです。記号を導入する中で出来るだけ自治会の皆さんが混乱せず、負担にならないという形で今回の記号式という案を説明し、了承をいただきました。

2点目として他市でやっているのかという事ですが、県内でも記号を使っている市は3自治体あり、地域によって記号を取り入れている例があります。ただ、磐田は自治会の負担にならない様にごみ対策課の方で記号を管理する事にして、この部分は色々研究をして取り組みを進めてきたという経緯があります。

続いて3点目の仮置場の関係ですが、昨年9月の災害時の仮置場は、被災者の皆さんに少しでもお役に立てるようにごみ対策課一同で取り組みました。ただ、ごみ対策課の職員だけでは、とても対応が出来ないという事で、災害協定を結んだ業者さんがすぐに対応をしていただけました。令和4年7月下旬頃に磐田市として初めて結んだという経緯がありまして、9月には防災訓練時に情報伝達訓練をやっていたものですから、9月下旬の災害時にも顔の見える関係が築けていたので円滑に仮置き場も開設出来たし地域のごみも回収

が出来たという事に繋がっていると思っています。仮置場は今回1カ所だけでしたが、1万平米ほど必要で、野球場くらいの面積を想定しています。磐田市内でごみ対策課として候補地を10ヶ所程想定しており、今後、バリケードや看板などを拡充していきたいと考えています。

最後にごみ処理の経費の関係です。令和元年度が18億円。令和2年度が19億円。令和3年度が22億円という事でこの3年間だけを見ますと上がっているような感じになるのですが、磐田市の合併以降は大体18億円前後で推移してきた経緯があります。令和3年度が22億円と上がっているのが、このクリーンセンターが完成したのが平成23年でそこから10年間固定で10年分の委託料が決まりましたが、令和3年度から新たな10年間の運営委託料を決めた中で、今後壊れる前に修繕対応をして壊れないようにしようといった経費も盛り込んだ10年間の委託料が算定されたので、その部分が増額の要因となっています。したがって、この10年間の中ではそれが見込まれているので、経費がずっと上がっていくというわけではなく、概ねこの金額で推移していこうと見込まれています。あと令和2年度に少し上がっている要因ですが、これは焼却灰の資源化というのを磐田市が取り組みはじめまして、その部分の増額がされています。灰を資源化する事によって埋め立てるのを減らそうという事で、最終処分場を作らずにやっ払いこうという事でコストはかかるのですが未来の為に先行して取り組んでいる経費の増額と考えております。

会長 ごみ袋の記名については、自治会の中でもだいぶ議論がありまして、長い間記名をする事によってごみの分別が正しく行われていたという実績があり、あえて記号にしてしまうと若干無下になってしまうのではないかという心配が一点、自治会の皆さんに負担が大きくなってしまおうという事がもう一点ありました。先人が苦勞して記名方法を取ったわけですね。我々の伝統として残していかなければならないのではないかなという事で、色々議論をしてこのような形になりました。

委員 外国人のごみの出し方についてですけど、現在ブラジルの方が

5,210人でフィリピンの方が1,400人くらいですが、最近増えてきているがインドネシア語の方で、3年ぐらい前に280人くらいだったのが今は倍近くの430名ほどが磐田市に住んでおります。こういった方達の対応が検討されているかどうかという質問です。あと、リサイクルステーションの回収の項目や場所を伝えたら、多くの外国人がどこにあるのか、どのような物が捨てられるのかという事をあまり把握していない場合もあるのではないかと思います。周知啓発を今後どのように考えているのか教えていただきたい。

事務局 今回、外国人向けごみの出し方動画の作製を3か国語に決定したのは人口が多い順という事で、この3か国語で市内在住外国人の8割ほどになります。今回これを3か国語で作って効果を見ながら検討していければと思います。それから、リサイクルステーションの関係です。こちらも今回発行したガイドブックに載せていますが、非常に利用者数が増えています。これまで3万人から4万人くらいだったのが、6万人を超えるようになっています。非常に便利だという声もいただいておりますので、案内の拡充について考えていきたいと思ます。

委員 リサイクルステーションで回収品目を増やすという事で電子タバコとかクリアファイルなどを回収されるようですけど、それは業者に売るのでですか。

事務局 電子タバコ等の充電式電池が内蔵された機器については、これをなぜリサイクルステーションで回収するようにしたのかというと、プラスチックに間違えて入れたり可燃ごみに入れたりしてパッカー車が回収した時に挟まって破裂して発火するという事件が全国的に起こっているという事で新たに分別して回収していこうという事になりました。回収した後に中遠粗大ごみ処理施設に搬入して処理するという事になっています。また、クリアファイルについては民間の事業者で資源化をしてくれるものですから、そちらの方へ依頼しようと考えております。

委員 食品ロス削減に関して、しっぺいの手前から取ってPOPを去年

いただきまして、なかなか劣化が激しいため、定期的にいただけると店舗にも並べられますので、提供いただければと思います。これからも事業者の立場で情報発信とか色々なキャンペーンに協力していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

委員 民間の古紙回収ステーションですが、途中で段ボールとかを入れていこうと思っても溢れてしまっている。コロナ禍以降は資源回収をかなりやっていて、出す人がとても多いです。だからどんどん増えるという状態で、逆に市は少しずつごみが減っているというのですけれど、実際にはごみが増えているのではないかと私は思いますが、状況を教えて下さい。

事務局 ごみの量については令和元年から令和 2 年にかけてはコロナ禍の影響で非常に増えたというのがあります。その頃から比べると落ちてきたという意味での減少があると思っています。

委員 当社は古紙の回収業務もしているのですが、古紙の回収量は段々減っています。民間の古紙の回収ステーションが至る所に出来ているものですから、それも重なって小中学校の資源回収量がかなり減ってきているところです。段ボールが溢れていることに関しては、会社のモラルによるところもあるのではないかと思います。

委員 「値引きシールを集めて食品ロス削減キャンペーン」を実施する前とこういったキャンペーンをやるようになってからというのはどれくらいまだ食べられる食品を捨ててしまうというかその量をどれくらい削減する事が出来たのかを知りたいというのと、令和 5 年度のごみ袋の記名をする事が難しい事情がある方に限り記号を割り当てて実施というところですが、難しい事情というのは具体的にどういった方が当てはまるのか教えて頂きたいです。

無記名で残されたごみ袋に関してはごみ対策課の職員の方々が回収してご本人に直接指導するという事なのですが、名前も記号も無い方をどういった形でご本人の調査をされるのかなというところと、今年度の取り組みの中でごみ減量標語の募集があったと思うのですが、応募総数が 528 件というのは市の中では多いと感じたのか少ないと思

われたのか、小学生以下の一般の方の割合が分かれば教えて頂きたいのと、来年度にもこういった事をやる場合は、小学4年生だと思っておりますがクリーンセンターの見学といったものなどが入ると思いますので、例えば夏休みの宿題の一つとして標語を作ってもらおうとかそういった事をすればもう少し増えるのかなと思いました。

事務局

まず、食品ロス削減の効果という事ですが、値引きシールキャンペーンで6,900通ほど応募がありましたけれど、これはあくまでも推定値という事で今まとめようとしている数字は、1商品500gと仮定してシールが5枚貼ってあると、その方が2.5kg分お店から廃棄物として出ずに食べてもらえたという事になります。それに6,900通を掛け合わせると2カ月間で十数トンの食品ロス削減になる計算になります。そういった数値的な物もまとめまして、結果報告書といった形でこれからお示し出来ればと思っています。

それから2点目の記号の事情という部分ですけれど、ストーカー被害の恐れのある方ですとかDVの被害を受けて引っ越してきたという方から既にご相談をいただいておりますので、そういった例を想定しております。

それから3点目は無記名の場合どうやって調査するのかという事ですが、これはごみ対策課職員が開封調査を行います。無記名で何も書いていない不適正ごみ袋は開封調査をして、出した方が判明した場合は、個別に文書を通知するといった指導をさせていただきます。

最後に標語の関係です。500件以上という事で非常に多かったなと思っております。小学生の方が多かったのですが、今委員さんに言っていたように、クリーンセンターの施設見学に来てくれた学校の方をお願いをして皆さんに出してもらったという物が多くを占めております。

委員

値引きシールキャンペーン、ごみの標語、施設見学、ガイドブックの改訂などのこういった取り組みというのがとても大事で、値引きシールキャンペーンも増えているという事で継続は力なりといいますが、これらの大事な活動の為に継続していくという事がとても大事かなというのを改めて思いました。それから、3Rの推進月間で、本庁舎とか図書館など3か所で展示を実施されたと思うのですが、そ

ういった所はやはり来場者が限定的かなと思います。もっと沢山の人が集まるような所でされると良いかなと思いました。

委員 持続可能なごみ集積所という回覧物をいただきましたが、私はいつも回覧という物は早く回さないといけないと思って少し飛ばして読んでしまうのですね。こういった大事な物は回覧ではなく全戸配布して欲しいと思いました。それからもう一つ、高齢者はなかなか LINE を利用しない。色々な事をすぐに取り入れられないという状態ですので、高齢者の事も少し考えていただきたいなと思いました。

委員 先程のご意見は大賛成で、ホームページやメールでお知らせという事が沢山出てきて、私も分かりませんのでとても困っています。それから、先程おっしゃっていたように努力すると自分の元に何かが戻ってくるという、そういった事を感じるような活動が目に見えてくると皆さん何かしらやるのではないかと。動かない事には仕方ない事なので、皆が動くような方策を何か考えて楽しくやる事が出来たら良いなと思います。それから集団回収の件ですが、令和3年度は152団体と書いてありますが、令和4年度では140団体に減っている原因は何があるのかという事ですが、私達がやっている回収は毎年減っているので、その集まらない原因は民間の古紙ストックヤードにあるのではないかと私達は考えています。

事務局 集団回収が減っているのはやはりコロナの影響が大きく、特に令和2年頃から減ってきました。学校として活動がちょっと難しくなったとかご高齢になったので難しいといったようなそういった現実には確かにあります。その反面、民間の古紙のストックヤードが増えているという事で市民の皆さんの排出環境については確保されていると考えています。

2点目の努力をすると結果が見えるとか楽しくといったような事は我々もそう考えていまして、ごみゼロスタンプラリーをちょうど今やっていますが、現在、2週間経ちましたけれど、トイレトペーパーが既に100個以上交換されたと聞いております。そういった関心を持ってもらって実際に行動に移してもらえというような観点でスタンプラリーや食品ロス削減キャンペーンに引き続き取り組んでいき

たいと思います。

磐田市民の皆さんにお知らせする一番効果的な方法は広報いわた
とっておきまして、例えば広報いわた8月号で生ごみ堆肥化容器
の制度を紹介している記事に載っている「私も使っています」とい
う女性は、今年度ごみ対策課に新規採用で配属になった職員です。
コンポストの担当になった事で使い始めて、その感想をここに載せ
させてもらい、10月から市役所やにこつとに展示をしていたら、ち
ょうど通りがかった一般の方から「あ、コンポストのお姉さんだ。
広報出ていましたね」という風に声をかけられたという事で新規採
用職員ですけれど非常に手ごたえを感じて、前向きに色々と考えて
おりますので、ぜひ期待していただければと思います。

事務局

少しだけ補足させてください。ごみの方ですけれども、減ってい
るのかという話があるのですが、紙媒体という事で新聞の発刊数とか
もだいぶ減っているという事も聞く中で、各事業所さんの梱包を少な
くするとかそういった努力もしていただいている関係で紙やプラス
チックの総量も減らす努力を市民の皆さんと共に企業の方も色々と
してくれているのかなというところもあります。もう一点、お年を召
された方は LINE とか厳しいという事でもちろんだと思います。そう
いったところで電話番号を必ず入れているものですから、気兼ねなく
ごみ対策課の方に電話するように周りの方にもお知らせしていただ
けると幸いです。

会長

最後に私の方から一言申し上げたいと思います。生ごみを減量す
る時はやはりコンポストが一番良いと思います。これの普及を今後続
けていけば、かなりのごみが減るのではないかなと私自身使ってみて
そう感じております。私も生ごみは一度も出した事はありません。そ
ういった施策を継続して推進していくのが良いと思います。

それから前回視察へ行かせていただきまして、色々な勉強をさせて
いただきました。現場の働いている労働者の皆さんが苦勞してごみの
分別をしているというのが良く分かりまして、ますます我々は分別に
注意してごみを出さなければいけないなと実感しました。こういった
事を皆さんに広げていけば良い環境になるのではないかと思います。
今後それをもっと実際の生活に活かしていきたいと思います。本

日は本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

4. 閉会

事務局 本日は長時間に渡り本当にお疲れ様でした。以上を持ちまして、令和4年度第3回審議会を終了します。ありがとうございました。